



- 1. XFlow: an Innovative LBM Approach
- 2. 課題1:巡航状態及び高迎角時のNASA-CRM空力予測



- 1. XFlow: an Innovative LBM Approach
  - XFlow の概要紹介
  - 格子ボルツマン法
  - LES乱流モデル
  - ・ 壁関数モデル
  - 解析事例



# XFlow : an Innovative LBM Approach

- XFlowの概要紹介
  - 毎開発元 Next Limit Dynamics (スペインマドリッド)
  - ⊕ 解析手法
    - ▶ 格子ボルツマン法
    - ▶ D3Q27 格子による高い表現力と対称性の確保
    - ▶ 独自の衝突演算手法
  - ⊕ 解適合による格子再分割
    - > 渦度、液面への動的な追従
  - ⊕ 壁面モデルを含むLES乱流モデル
  - ⊕ 移動体への対応



Structure D3Q27





## XFlow : an Innovative LBM Approach









# XFlow : an Innovative LBM Approach

<text><image><image>

1. 課題1:巡航状態及び高迎角時のNASA-CRM空力予測

- 解析条件
- 風洞モデル
- 空力係数(全体)
- 揚抗比による評価
- 成分分解結果
- 翼断面圧力係数分布
- 表面圧力係数分布図







■ 計算格子



#### 111



課題1:巡航状態及び高迎角時のNASA-CRM空力予測 (尾翼有、変形計測データを反映)



■ 成分分解

母 揚力係数

主翼	胴体	尾翼	全体	実験結果
0.52114	0.07152	-0.01215	0.58051	0.508794
89.8%	12.3%	-2.1%		

#### ⊕ 抗力係数

主翼	胴体	尾翼	全体	実験結果
0.02130	0.01432	0.00234	0.03796	0.028263
56.1%	37.7%	6.2%		











■ 尾翼分布の誤差について

⊕ 本解析は支持部無でのデータであり、実験結果と解析条件が異なります









■ 計算コスト

#### ⊕ 端末仕様

- > CPU : Intel(R) Xeon(R) CPU E7- 4870 × 4
  - ✓ コア数: CPU単体 10 ノード全体 40
  - ✓ 周波数: 2.40 GHz
  - ✓ キャッシュメモリ:30 Mb
- ▶ メモリ 125 GB DDR3

#### ⊕ 計算負荷

- ▶格子数: 30,893,747 格子
- ▶ 時間ステップ: 2万ステップ
  - ✓ 現象時間 1.2e-2 sec
  - ✓ 時間刻み 5.9e-4 sec (最小格子部分)

#### ⊕ 計算時間

▶ 30日間

## 🔳 まとめ

#### ⊕ 圧縮性ソルバによる現象の再現が可能であることを確認いたしました

- ▶ 機体表面上の圧力分布結果より、衝撃波をとらえられていることを確認
- >計算過程についても異常値はなく、圧縮性対応ソルバの安定性も良好

#### ⊕ 課題

- >ポスト処理(グラフ・数値取得)の対応



COPYRIGHT 2016 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL - DENTSU, LTD. ALL RIGHTS RESERVED.